

2022 年度 明治大学研究者交流支援制度実施報告書

(2020 年度採択、新型コロナのため 2022 年度実施)

<招聘責任者> 大山 るみこ（文学部専任教授）

<招聘者> Carey Jewitt 教授（ロンドン大学 University College London 教授）

<招聘期間> 2022 年 11 月 25 日（金）から 12 月 4 日（日）まで

<招聘者について>

キャリー・ジュイット（Carey Jewitt）教授はロンドン大学 UCL 教育研究所文化・コミュニケーション・メディア学部テクノロジー・ラーニング学科教授である。招聘者とは同時期に同じ指導教授（故グンター・クレス Gunther Kress 教授）のもとで博士後期課程に在籍していた。そのため 2000 年に招聘責任者が帰国してからもマルチモーダル研究分野において共同研究、共著の出版なども行なってきた。また国際学会や研究会を通じて学術交流を継続してきたこともあり、この度明治大学への招聘を希望した。ジュイット教授は、主な研究テーマであるマルチモーダル研究を通じてファイン・アート、メディア、社会学、談話分析、英語教育など、学際的視座から幅広く研究や業績出版を行なってきた。2010 年以降はデジタル・テクノロジーの使用が、さまざまな文脈における人々の相互作用、コミュニケーション、学習にどのように貢献できるかを研究している。ジュイット教授は、学際的な方法論の発展にも意欲的であり、SAGE 出版社の 2 つの国際ジャーナル *Multimodality & Society* と *Visual Communication* の創刊編集者を務めるなど、マルチモーダルな理論・実践の発展に多大な貢献を残している。キャリーは、デジタル技術の社会的側面に関する多くの学際的研究プロジェクトを主導し、彼女の研究は ERC、ESRC、EPSRC、英国アカデミー、慈善団体から資金援助を受けてきた。2015 年以降の研究プロジェクトとしては、ERC の Consolidator Award を受賞した InTouch があり、未来のコミュニケーションのためのデジタルタッチ（触覚）テクノロジーの持つ教育的社会的意義を研究している。同じくロンドン大学 UCL 研究プロジェクトチームメンバーであるサラ・プライス(Sarah Price)との共著 *Interdisciplinary*

Insights for Digital Touch Communication (2020 年) は当該分野のパイオニア的研究業績である。

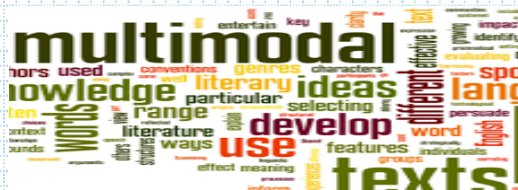


12月1日 木 15:10-17:00

明治大学駿河台キャンパスリパティータワー 1098教室 (9階)

講演詳細

このセミナーでは、文字だけでなく映像・図像など様々なさまざまなコミュニケーションモードの意味を考えてみます。複数のコミュニケーションモードが共存するマルチモーダルなテキストを「読む」ための基礎概念の紹介とその実践を行います。ワークショップ形式、インフォーマルなセミナーですので、興味のある人はどなたでもご参加ください。
* 上記ワークショップの内容の他に、ロンドン大学UCLについてもお話しいただきます。



担当講師 : Prof. Carey Jewitt
ロンドン大学University College London

お問い合わせ

コーディネータ・通訳 文学部 大山るみこ
主催：国際連携事務室 E-mail: gakujiyutsu@meiji.ac.jp

< 招聘期間中活動内容 >

明治大学での講義

12月1日に Reading Multimodal Texts という演題で60分程度の講義を行なってもらい、30分間は質疑応答の時間に充てた。招聘担当者の英米文学ゼミ（3年）の時間を使つての講演であったが、大学院博士前期課程在籍者も参加した。参加者は英文学を専攻している学生がほとんどであり、対象テキストは文字（活字）からなるシングルモードテキストである。そこで、本講演では文字以外のテキスト（特に図像・映像）を読み解くためのリテラシーについて実際の例（マルチ・モーダルテキスト）を交えながらお話しいただいた。学生達にとって必要不可欠となっているSNSや検索するインターネット情報はすべてマルチ・モーダルテキストであり、普段何気なく目にしているそれらの「テキスト」を体系的に読み解くための理論ベースと方法論の入門的内容にも触れてもらった。英語での講義ということで招聘担当者による通訳も挟んでの60分間であったことで当初予定していた内容よりも少しだけ省略したポイントもあったが、マルチ・モーダル研究の最前線についてとても内容の濃いものとなったと思う。当該研究分野においてはジュイット教授のものも含め、訳書が少ない研究内容であるため今回の明治大学での講演はイギリス国外での研究者対象の学会以外でジュイット教授がマルチ・モーダルテキスト分析について講演をする大変稀有で貴重な機会となった。参加者からの質問は英語ということもあり活発であったとは言えないが、インターネット環境との関連性について話が波及した際には建設的な意見の交換があった。

マルチモーダルテキスト分析についての講演の後、15分程度で留学先としてのイギリス、ロンドン、ロンドン大学ユニヴァーシティカレッジロンドンについてお話しいただいた。留学に興味がある参加者も数名おり、ロンドンでの学び自体がマルチ・モーダルな学びの体験をする場所として最適であること、イギリスの大学での授業スタイル（インプットとアウトプットのバランス）についても説明していただいた。あと特に最近増加しているアジア諸国からの留学生の抱える問題や英語での学術パフォーマンスの質をいかに高めたら良いかなどについても貴重なアドバイスを受けることができたと思う。



<触覚コミュニケーション研究者との学術交流>

訪問先 渡邊 淳司氏（NTT コミュニケーション科学基礎研究所 人間情報研究部 感覚共鳴研究グループ上席特別研究員）

11月27日 午前10時から午後12時まで

NTT ICC (Inter Communication Center) にて触覚コミュニケーションについての学術交流を行った。渡邊氏は2012年にUCLにおいて客員研究員として触覚コミュニケーションの研究を行った経緯もあり、スムーズに内容に入ることができた。

まずはブリーフィングとして渡邊氏の研究について説明していただき、ジュイット教授の研究との意外な接点や相違点を確認することができた。その後で初台オペラシティタワー内にあるICCでの触覚コミュニケーションの実践体験（下記写真参照）も行いながら、日本における触覚コミュニケーション研究の最前線の知見を得ることができた。

* 渡邊氏（左）とジュイット教授（「触覚名刺」「心音通信」についての説明を現物を見ながら聞いているところ）



N T T Inter Communication Center での触覚コミュニケーション実践（渡邊氏と「触覚通信」を行うジュイット教授）



N T T Inter Communication Centre 特別展 Life/Likeness 会場入口にて



この度、明治大学研究者交流支援制度に採択していただき、ロンドン大学UCLキャリア・ジュイット教授の来日を実現することができた。英国をはじめとして主にヨーロッパの大学においては主要な研究の一つであるが、日本国内における人文科学研究としてはまだ認知度も低いマルチ・モーダリティ研究の最先端を明治大学で紹介する機会を得ることができたことは大変有意義であったと思う。ジュイット教授にロンドン大学UCLでのセミナー授業のスタイルになるべく近い方

法で講義をしてもらうよう依頼したことで、「学生参加型講義」となったと思う。イギリスの大学の授業スタイルを現地の教員から直接体験することができ、緊張したが楽しかったとのコメントもあり、その点においても有意義な機会であったと思う。

以 上